

校長室だより

第7号

柏原市立堅下北中学校
校長 石田 智
令和5年10月10日（火）発行

文化祭特集号 ～校長講評より～

先日体育祭が終わったところですが、先週の10月6日（金）には文化祭が行われました。私は前日のリハーサルからずっと見ていたのですが、わずか1日で、明らかに前日よりグレードアップした発表を見せてくれたように思います。それはやはり生徒たちの存在が大きかったのではないのでしょうか。リハーサルでは空席の客席に向かって発表しましたが、本番では、観客として応援してくれる生徒たちがいました。思いを伝えたい相手が目の前にいたことで、モチベーションが上がり、更に質の高い発表につながったと思います。

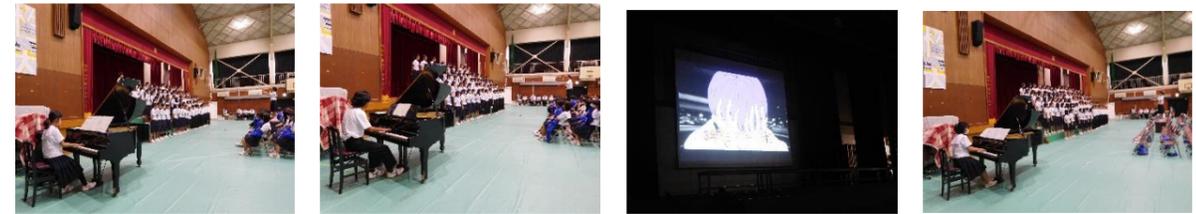
○開会～午前の部

生徒会長による堂々とした開会の挨拶の後、午前の部がスタートしました。まず舞台発表のトップバッターは1年生でした。「1年生起立！」の掛け声から「はい！」の大きな返事でスタート。オープニングの群読で、自分の出番に当たった生徒が、身体をのけぞらせて大声で発表している姿には胸が熱くなりました。「見ている人を感動させたい」という1年生全体の思いが確かに伝わったような気がします。伝統の「マイバラード」は4月に聞かせていただいた2年生の歌声を継承するだけでなく、50期生としての個性が加わった合唱に仕上がっているように感じました。2曲目の「小さな恋の歌」は1年生らしい元気があふれ、弾けるような歌声で、本当に素晴らしい出来だったように思います。

続くは2年生の発表でした。1年生の気合の入った発表が大きな刺激になった様子で、移動は黙って動き出し、舞台上上がる際の足音はむしろ大きめに「ドンドン」と鳴らしきれいに揃えるなど、「静」と「動」の切り替えがとてもかっこよく感じました。群読は声が大きく発声も明瞭で、群読の途中から1曲目の前奏に入る演出も見事でした。1曲目の「君を乗せて」では、女子による「ウー」というコーラスの響きが美しく、女子が少ない学年であることを忘れさせてくれるようでした。2曲目の「時の旅人」は組曲のように曲調が何度も変わるので歌うのが難しいのですが、男子の音程が常にしっかりしているので、大変心地よい合唱に仕上がっていたように思います。

短い休憩の後には美術部による発表でした。前日のリハーサルでも、まだ制作中ということで、私も完成形を見たのは本番が初めてでした。アニメーションは曲の内容に合わせた演出が巧みで、ミュージックビデオさながらの出来でした。マリオのこま撮り動画は、客席から何度も笑い声が起ることからも分かるように、ストーリーとしてもよく練られた作品でした。「踊ってみた」の動画では、3年生の先生のサプライズ出演する演出で会場を盛り上げてくれました。上映時間にして10分ほどの発表でしたが、使われている素材は全て美術部の部員たちが描いたり用意したものだと思われます。次々と変わっていく画面を見ながら、一体どれだけの時間をかけてこの作品を作りあげたのかと想像すると、生徒たち努力に頭が下がる思いがしました。

そして午前の部最後を飾るのは3年生の発表でした。「温故知新」というテーマで臨んだ修学旅行を通じて学んだ平和への思いを、後輩につなぐ、未来につなぐという強い意志が、緊張感のある群読から痛ほど伝わってきました。また全員が一斉に声を出した時の音圧は、さすが3年生と思わせる圧倒的なものを感じました。合唱曲はメッセージ性の強い「HEIWAの鐘」でした。「奇跡を起こしてみないか」という歌詞に乗せ、長崎の地で語り部の羽田先生と約束した未来、差別や争いのないみんなが心ひとつになれる世界を願う3年生の決意が、美しいハーモニーとなって体育館に響き渡り、とても感動的な発表だったと思います。



○午前の部～閉会

午後の部は舞台発表の最後を飾る吹奏楽部の演奏でした。Our Greatest Showの名のとおり、現在の部員たちにできる最高の演奏を届けようという意気込みを感じさせてくれる演奏でした。最初の「華の伽藍奢（がらしや）」は今年の吹奏楽コンクールの地区大会で金賞を取った曲でした。さすがにこなれた演奏で、ドラマティックな展開は聴いている者を引き込む魅力があり、出色の出来でした。続く今年の夏の高校野球応援歌であった「フォトグラフ」は、爽やかなメロディが、先日の体育祭までの練習に励んでいた生徒たちの様子を思い出させてくれました。「マリオブラザーズのメドレー」では、美術部に続き、ここでもマリオが登場し、ルイーゼを追いかけるという演出で楽しませてもらいました。「どうする家康」の挿入曲では、手拍子で観客が参加するという演出も新鮮でした。「名探偵コナンのテーマ」は、ソロのコーナーがたくさんあり、それぞれの楽器のもつ音色の魅力に気づかせてくれました。そして今年もアンコールはみんな大好き「マツケンサンバ」で、文化祭のフィナーレを飾るのにふさわしい心弾む演奏で締めくくってくれました。吹奏楽部の部員たちは、先日の体育祭では、全員の行進のスピードに合わせるという難易度の高い演奏をしてくれたばかりで、その後の短い期間でこれだけの曲を仕上げるのというのはとても大変なことだったと思います。本当にお疲れさまでした。

演奏後は校長による講評があり、最後は生徒会副会長の的確なまとめの挨拶で閉会となりました。



○展示の部

お昼休みに展示の部の見学時間がありました。3学年ともに工夫された展示がされており、平和レポートについては全学年で掲出されていました。テーマは広島や長崎の原爆や、世界の紛争、ロシアのウクライナ侵攻、台湾有事、子ども兵の問題など、多種にわたっており、読みごたえのあるものでした。美術の授業における作品展示には、絵の具を混色してあるものそっくり塗った作品や、オリジナル書体、透視図法を使った構成作品の3種類があり、かなりの力作ぞろいで、保護者の方も時間をかけて見学されていました。美術部の作品展示は恒例の黒板アートにはじまり、オリジナルのカレンダー、ポर्टレートが多数飾られており、舞台発表では見られなかった作品も多数ありました。家庭科部の展示では、美術部がデザインしたキャラクターによる調理実習や活動の様子を紹介ビデオが放映されており、見学される方の足を止めていました。展示作品は、ダイヤモンドアートやしおり、編み物、折り紙アート、筆箱、キーホルダー、プラバンアート、オブジェなど多種多様で、どれも大変よく作り込まれていました。